

## 1年生の運動会を応援しに行こう！－小学校の運動会練習を見学－

年長

## ねらい

- ・小学生の姿に刺激を受け、体を動かす遊びに意欲をもつ。
- ・他の施設の同学年の友達に出会い、親しみをもつ。

## 実践の概要

運動会に向けて取り組んでいる連携先の小学校や、保育所と連絡を取り合い、小学校のグラウンドで待ち合わせることにしました。1年生のダンスや徒競走などを間近で見て、幼児は1年生の踊りや音楽、力いっぱい走る姿に刺激を受けていました。



1年生走るの速いね！  
鬼ごっこしたらすぐに捕まっちゃうかもね。

広いグラウンドだと、  
たくさん走れそうだね！

今度、幼稚園で一緒に遊びたいね。

幼児は園庭の大きさとグラウンドとの違いに心が動き、「校庭で遊んでみたい」と思いをふくらませていたところ、小学校の先生から「また来てください。」と言葉を掛けていただき、とても喜びました。保育所の友達とまた一緒に遊ぶことを約束して、それぞれの園に帰りました。



いいね。また、会おうね！

## 実践のポイント

**教師の援助** 身近な地域の施設や友達のことを知らせ、新しい出会いを喜び、互いが親しみをもてるよう期待へつながる言葉をかけた。

**工夫した環境や教材など** 実施後、幼児の感想を聞き取り、思いや感じたことなどを小学校、保育所と共有した。これをきっかけに、保育所や小学校との新たな交流や大切にしたい交流の継続に意識が高まった。

- ・保育所→幼稚園の園庭や隣接する林などで、季節に応じた遊びを一緒に楽しむ（同年齢の幼児同士の関わりの充実）
- ・小学校→学習発表会の見学、保育所の年長児と共に小学校見学



## ココが良かった！

## 幼児

- ・幼稚園以外の同年齢の友達との出会いに喜びを感じることができた。
- ・小学生の力強い走り方に刺激を受けて、真似ながら体を動かして遊ぶことを楽しんだ。

## 児童

- ・幼児からの応援があることで、さらに運動会への意欲が高まった。
- ・自分から積極的に挨拶を交わすなど、互いの存在を意識するきっかけづくりができた。

## 育まれている10の姿

健康な  
心と体社会生活との  
関わり言葉による  
伝え合い豊かな感性  
と表現

## 1年生からのプレゼントー直接交流はなくても工夫できるよー

年長&amp;1年生活

## ねらい

幼児

1年生を身近に感じ、やりとりすることを喜ぶ。

児童

様々な自然を試しながらおもちゃを作り、楽しんで遊びを創り出す。

小さい子のことを考えたり、想像したりし、やりとりすることに期待をもつ。

## 実践の概要

生活科の単元「きせつとなかよし」の中で、1年生は秋の自然物を使い、工夫しながらおもちゃを作りました。自分たちで遊ぶことを楽しんだ後、「幼稚園の子どもたちにおもちゃをプレゼントしよう」と活動が進んでいきました。

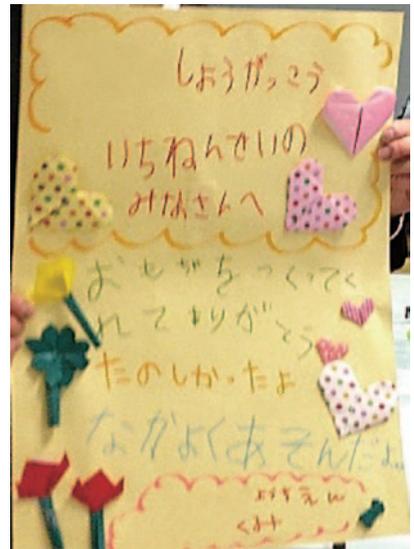
しかし当時はコロナ禍ー幼児と児童が直接交流することができなかったため、小学校の連携担当者が児童の作った手作りおもちゃを幼稚園に届けてくれました。

「マラカス」や「けん玉」などの手作りおもちゃを楽しんだ幼児は、1年生にお礼の手紙を書くことにしました。小学校に訪問はできないので、幼稚園教諭が小学校に届けます。幼児の思いが表れている手紙を目にしたことで、1年生は幼児に喜んでもらえたことを実感できました。



## 実践のポイント

- ・年度当初に連携担当者同士で交流日程、内容を計画することで確実な実行につながる。
- ・コロナ禍で直接的な交流が難しく、内容を工夫した。例えば連携している園と学校の距離が遠いなどの物理的な課題があるときなどにも活用できる方法である。
- ・生活科の単元を活用した取組のため、改めて準備をしたり、計画を立てたりする必要がなく、取り組みやすい。



## ココが良かった!

幼児

- ・小学生に対する親しみの気持ちや学校への興味をもつことができた。
- ・おもちゃで遊ぶ中で「自分たちも作ってみたい」と刺激を受け、製作活動の意欲が高まった。

児童

- ・製作遊びを楽しむとともに小さい子を喜ばせたいという『相手意識』をもって、活動を工夫する姿につながった。

## 育まれている10の姿

社会生活との  
関わり思考力の  
芽生え数量や図形、  
標識や文字  
などへの  
関心・感覚言葉による  
伝え合い豊かな感性  
と表現

## 授業を見て感想を伝えようー対面に限らずできる工夫ー

教職員

## ねらい

- ・幼稚園、小学校が就学前教育と小学校の接続の視点から情報交換を行う。
- ・相互の参観を通し、子どもの学びの連続性について共通認識をもつ。

## 実践の概要

## 【幼稚園教諭が小学校1年生の授業を参観した時の事例】

幼稚園教諭は案内のあった日時に、指定された学級の授業を参観します。その際小学校は、授業に関する感想や意見を取りまとめられるように、アンケート用紙を準備しておきます。

授業参観後、幼稚園教諭は園に戻ってからアンケート用紙に気付いたことや質問、訊いてみたいことなどを記入し、小学校連携担当教諭にメール等で送信します。



小学校連携担当教諭は、必要に応じて、メールや電話等で質問事項に対する返答をします。



※小学校教諭が保育参観をするときにも同様に取り組むことができます。



授業の中でなぜ〇〇〇という言葉  
掛けたのですか？

1年生の指導では〇〇〇を大切に  
しています。自ら意識できるような工  
夫をしているのですよ。



## 実践のポイント

- ・前年度の3学期に、幼保小連携担当者同士で次年度の見通しを確認しておく、担当者が変わったとしてもスムーズに連携が続く。(交流を途切れさせない)
- ・連携の推進にあたっては、応答性のあるやりとりを含む内容を工夫して教師の学びにつなげ、一方通行の関わりにならないようにする。
- ・交流日程を新たに組むのではなく、保護者や地域向けの授業、保育参観日に参加し合うと効率的である。
- ・参加者は、他の職員に概要や得た情報を共有し、幼保小の接続に関する内容の理解を深める。



## ココが良かった!

参観するだけでなく授業後にやりとりできたことで、発達の段階に応じた指導の視点の違いや共通点を確認でき、幼児・児童理解に関する視野が広がった。

## 研究全体会で学ぼう

教職員

札幌市の幼保小連携・接続

幼保小連携モデル園・校事業  
の取組

つながるひろがるマップ

実践例  
―自園・自校の実態に応じた取組―

## ねらい

・幼小の学びの連続性について、授業を通じて学び合うことで相互理解を深める。

## 実践の概要

小学校の研究全体会「1年生の算数科授業公開」の事前に行われた「指導案検討」に幼稚園教諭が参加しました。小学校の教育活動全体で『聞く』活動を大切にしているという話から、幼稚園でも『伝え合う』につながる『聞く』姿に課題を感じていることを共通理解しました。また、授業における小学校教諭の児童への関わり方や指導の手だてのポイントを知ることができました。

幼稚園教諭からは、幼児期に数量・図形についてどのような経験を積んでいるかについて例をあげ「積木で遊ぶ中で、『三角柱と三角柱を合わせると立方体になる』ことを無意識に感じている姿」「収穫物を数えるなど生活の中で必要に応じて数に触れている姿」等を伝えました。

研究全体会当日は、授業参観後に全体協議を行い、子どもたちの姿を元に【少人数交流の積み重ねが『聞く』姿勢に有効だった】【子どもの発言・発想の取り上げ方や新たな課題の提示の仕方が大切】等の話題があがり、幼児期にも通ずる手だてであること、幼児期の学びが児童期につながっていることを共通理解しました。



## 実践のポイント

**小学校** 幼稚園では感覚的に数量を扱っていることが分かった。その感覚的なものを知識として定着させていくのが小学校低学年の役割だということを確認できた。

**幼稚園** 就学後の学習の様子をイメージできた。幼児期において大切な学びや適した学び方について再確認することができた。

※小学校の研究に関連する『10の姿』を、幼稚園の指導計画に記載している『幼児の姿』から抜粋し、一覧表を作成して小学校の先生方に配付した。



## ココが良かった!

- ・幼児期には無意識に関わっている様々な事象が、児童期では意識化されて理由なども言葉で説明できるようになる。幼児期には「楽しい! 不思議! やってみたい!」などと心が動くような事象との関わりを多く経験することが大切である。
- ・幼小共に学ぶ機会があることで、互いの教育や指導で大切にしていること、共通点などについて知ることができる。